

一時保有と競合からの共生藻選択：
ミドリゾウリムシ共生藻の多様化プロセスに関する一仮説

保科 亮¹，藤原 裕子²

(¹立命館大・生命科学・生命医科学，²長浜バイオ大・バイオサイエンス)

【要旨】 ミドリゾウリムシは細胞内共生が間近にみられる原生動物として 100 年以上研究されてきた。共生する球状緑色藻の正体については近年の分子解析により種同定がようやく可能となり，生息域等に依存して少なくとも 4 種が確認されている。他の多くの藻類共生生物と異なり，生活環に共生藻を失うステージをもたないミドリゾウリムシは，どのようにして共生藻を交換し得たのか。本報告では細胞内に複数種の緑色藻を有するミドリゾウリムシ株を紹介，複数の緑色藻を細胞内で競合させた上でパートナーを選択していった可能性について考察する。